

B—2 グループ研究のまとめ

1 研究の成果

グループとしての成果と、各研究領域でとった手立てによる児童生徒の変容について述べる。

(1) グループの成果

「伝え合う力」は、実際に人とかかわっていく中でこそ育つ、という基本となる考えの下に、相手との直接的なかかわりを多くもち、そのよさを感じることが出来る場を授業の中に意図的に組み込んだ。それによって、児童生徒は、互いを受け入れ一緒に活動したり考えたりすることへの満足感、安心感などを感じることができた。また、他者の思いや考えに触れて、新たな気付きをもったり、自分の思いと比べながら考えたりするなど、自分の視野を広げていくことができた。それらの経験から、児童生徒は、人とのかかわりのよさを感じ、もっとたくさんの人とかかわってみようという意欲を高めていた。

(2) 小学校総合的な学習の時間（英語活動）

児童は、英語という適度な負荷のある活動の中で、コミュニケーションの原点を体験し、人と一緒に何かをすることの「楽しさ」を感じたり、コミュニケーションをとることに「自信」をもったりできるようになってきた。また、自分がかかわる周りの人に対して、今までにはもたなかったような「気付き」をもち、少しずつ自分の視野を広げたり、相手を知っていくことのよさや大切さを感じたりし始めた。実際の人とのかかわりの中で生まれてきたそのような思いや気付きは、「もっといろいろな人とコミュニケーションをとってみよう」という意欲や態度につながった。今後の活動の積み重ねによって、この意欲や態度が更に児童の中に育っていくことが期待できる。

(3) 小学校道徳

教師とのかかわりにおいて、TTによる資料提示や書く活動へのかかわりの工夫を行うことで、児童は、登場人物の気持ちをよく考え自信をもって表すことができた。また、児童相互のかかわりにおいて、少人数による意見交換の活動の工夫をすることで、児童全員が自分の思いを表したり、友達の考えを聞いたりすることができた。このような活動を通して、児童は「伝えてよかった！」「友達の考えが分かった！」「またしたい！」など、人とかかわることのよさを味わうことができた。このような活動を通して、自分の考えを広めたり深めたりするなど、道徳的価値の自覚を深めることが期待できる。

(4) 中学校道徳

多様な考えが出し合える資料を用いて、理由付けを必要とした発問を行うことで、生徒自身が考えを明確にすることができた。少人数で話し合うことで、全体の前では発言できなかった生徒が発言できた。自分の発言が他者に受け止められたという思いによって、自分の存在感や自己肯定感が高まった。話し合うことは多様な考えに触れることができ、それを受容することで、自己を見つめ、考えが広がったり深まったりした。これは、道徳的価値の自覚を深めることにつながっている。また、話し合うことは、友達のよさを知るきっかけとなり、今後の活動の積み重ねにより、望ましい人間関係のはぐくみにつながることを期待できる。

2 今後の課題

- (1) 「伝え合う力」をはぐくむための、他教科との関連を図った指導の工夫。
- (2) 伝え合おうとする意欲をはぐくむ学習環境の工夫。